

Daily Macro Economic Insights

国際収支統計(2026年3月)

2026年5月14日

経常収支のプラス幅は拡大傾向

財務省から、2026年3月の国際収支統計が公表された。3月の経常収支(季節調整値、以下同)は、3兆9,006億円(前月比+1兆1,991億円)と増加した(図表1)。原数値でも+4兆6,815億円(前年同月比+1兆562億円)とプラス幅が拡大した。

輸出(原数値)は10兆8,220億円(前年同月比+1兆1,313億円、+11.7%)と7か月連続で増加した。商品別には半導体等電子部品、非鉄金属、鉱物性燃料が増加した。地域別では対アジア・西欧向けで増加した。輸入(原数値)は9兆9,915億円(同+9,122億円、+10.0%)と2か月連続で増加した。商品別では通信機、非鉄金属、半導体等電子部品が増加した。地域別では対アジア、北米からの輸入が増加した。原油価格(財務省算出値)は、ドルベースでは68.73米ドル/バレル(前年同月比-13.6%)、円ベースでは6万7,695円/キロリットル(同-9.5%)とそれぞれ減少した。

原数値でみたサービス収支は3月に-2,578億円のマイナス(前年同月比-2,180億円)とマイナス幅が拡大した。「その他サービス収支」のマイナス幅拡大が寄与した。3月の訪日外国人旅行者数は361万8,900人(前年比+3.5%)と増加した。出国日本人数は151万9,000人(前年比+6.7%)と増加した。原数値でみた第一次所得収支は、+4兆6,307億円(前年同月比+7,981億円)とプラス幅が拡大した。直接投資収益のプラス幅拡大が寄与した。季節調整値では+4兆2,844億円(前月差+5,460億円)となった。

3月単月で見ると、輸入額減少を受けて貿易収支のマイナス幅が縮小した。第一次所得収支のプラス幅拡大も寄与した。経常収支は前年同月比+1兆562億円となっており、改善傾向が続いている。

図表1: 経常収支(名目・季節調整値)の内訳

(単位: 億円)

	経常収支							
	貿易・サービス収支	貿易収支				サービス収支	第一次所得収支	第二次所得収支
		輸出	輸入					
2024年度	300,315	▲ 61,674	▲ 30,309	1,078,302	▲ 1,108,611	▲ 31,365	414,084	▲ 52,095
2025年度	345,218	▲ 25,146	13,631	1,113,451	▲ 1,099,820	▲ 38,777	422,809	▲ 52,445
前年差	36,104	5,552	4,516	54,535	▲ 50,019	1,036	38,742	▲ 8,190
2025年								
1月	20,661	▲ 13,705	▲ 12,277	87,121	99,398	▲ 1,428	38,812	▲ 4,446
2月	28,128	▲ 787	3,254	96,031	92,777	▲ 4,042	33,015	▲ 4,100
3月	27,011	▲ 4,093	▲ 930	91,141	92,071	▲ 3,163	35,860	▲ 4,756
4月	25,826	▲ 2,140	▲ 876	89,321	90,197	▲ 1,263	32,942	▲ 4,976
5月	25,985	▲ 2,714	▲ 1,040	88,188	89,229	▲ 1,673	33,815	▲ 5,116
6月	21,735	▲ 1,405	555	89,163	88,608	▲ 1,960	29,350	▲ 6,210
7月	20,849	▲ 6,888	▲ 2,267	87,030	89,297	▲ 4,621	32,874	▲ 5,137
8月	26,270	▲ 2,569	506	89,920	89,414	▲ 3,075	33,422	▲ 4,583
9月	41,979	▲ 1,174	2,177	92,719	90,541	▲ 3,351	47,573	▲ 4,421
10月	25,348	▲ 2,323	121	90,633	90,511	▲ 2,444	31,771	▲ 4,100
11月	31,059	722	3,605	94,145	90,540	▲ 2,883	33,867	▲ 3,530
12月	26,315	▲ 4,023	44	92,871	92,827	▲ 4,067	34,682	▲ 4,344
2026年								
1月	31,704	6,040	9,354	102,023	92,669	▲ 3,314	30,402	▲ 4,738
2月	27,015	▲ 7,123	▲ 3,100	98,390	101,490	▲ 4,023	37,384	▲ 3,247
3月	39,006	▲ 1,958	4,178	101,642	97,464	▲ 6,136	42,844	▲ 1,881
前月差	11,991	5,165	7,278	3,252	▲ 4,026	▲ 2,113	5,460	1,366

サービス収支のマイナス幅拡大: インバウンド需要の鈍化に加えて、研究開発のマイナス幅が拡大

貿易収支のマイナス圏での動きが長期化する中、インバウンド需要、知的財産・デジタル関連の動向が注目されるサービス収支を確認しておこう。趨勢的な動きをみるため、原数値を3か月移動平均でみたのが図表2である。3月のサービス収支は-3,330億円(前月比-1,421億円)とマイナス幅が拡大した。以下でみる通り、インバウンド需要に加え、それ以外のサービス収支のマイナス幅拡大も寄与した。内訳をみると、インバウンド需要の影響が大きい旅行収支は+5,714億円(-246億円)となった。前述の通り、3月の訪日外国人旅行者数は361万8,900人(前年比+3.5%)と増加幅が縮小している。旅行収支は、回復に転じていたが3月はやや受取が減少した。知的財産・デジタル関連などを含む「輸送・旅行以外のサービス」収支は-8,343億円(同-1,081億円)とマイナス幅が拡大した。この「輸送・旅行以外のサービス」収支の内訳をみたのが図表3である。

知的財産権等使用料の2019年から2022年の傾向をみると概ね+700億~+3,500億円程度で推移していた。3月は+2,747億円(前月比-366億円)となった。前月から減少し、3,000億円台を割り込んだ。

3月の保険・年金サービスは、-2,849億円(前月比-3億円)となった。2019年1月の-453億円以降、ほぼ一貫してマイナス幅が拡大していた傾向が続いており、足元においても緩やかにマイナス幅が拡大している。

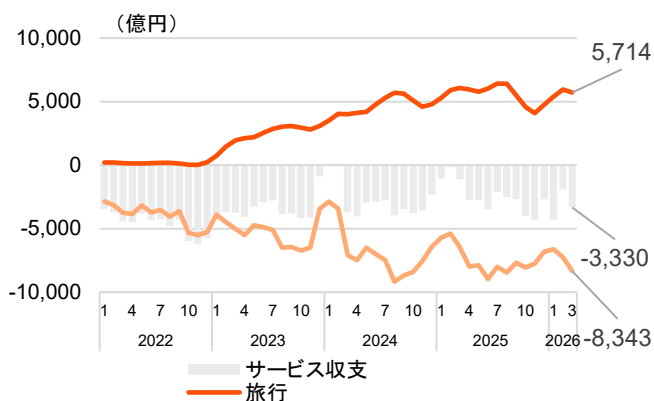
デジタル関連とされる通信・コンピュータ・情報サービスは、-900億~-2,500億円程度の間で推移していた。3月は-2,167億円(同-10億円)となった。前月からのマイナス幅の拡大幅は小さいものの、拡大傾向が続いている。

その他業務サービスは、-1,200億~-5,800億円程度で推移している。3月は-5,628億円(同-854億円)とマイナス幅が大幅に拡大した。この「その他業務サービス」の内訳を図表4でみると、3月の技術・貿易関連・その他業務は-1,201億円(前月比+52億円)とマイナス幅が縮小した。専門・経営コンサルティングは-2,061億円(同-33億円)とマイナス幅が拡大した。趨勢的には2021年以降のマイナス幅は拡大傾向にある。研究開発は-2,064億円(同-87億円)となった。昨年終盤から急激にマイナス幅が拡大している。これまでもっともマイナス幅が大きかったのは専門・経営コンサルティングであったが、3月にはわずかながら研究開発のマイナス幅がもっとも大きくなった。

3月のサービス収支はマイナス幅が拡大した。インバウンド需要の鈍化に加えて、研究開発のマイナス幅拡大が寄与した。

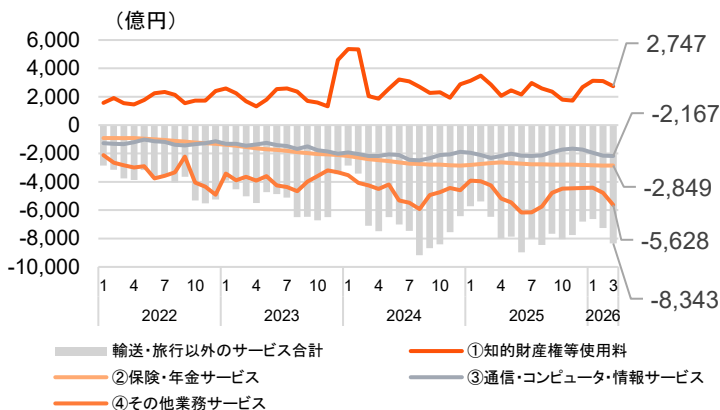
(PwC Intelligenceシニアエコノミスト 伊藤 篤)

図表2: サービス収支の推移 (3か月移動平均)



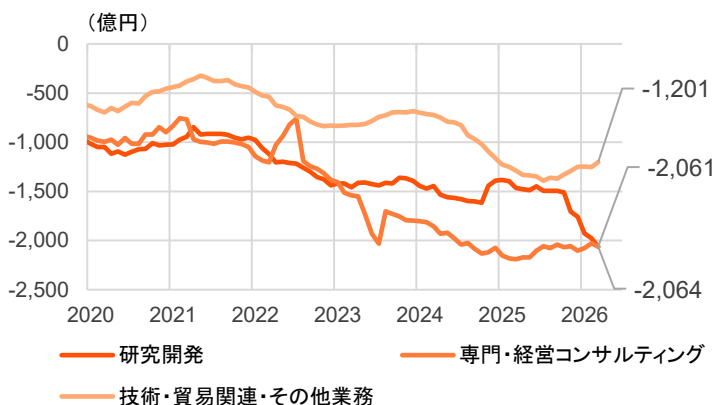
出所: 財務省「国際収支状況」、日本銀行「国際収支統計」より筆者作成。

図表3: 輸送・旅行以外のサービス収支推移 (3か月移動平均)



出所: 財務省「国際収支状況」、日本銀行「国際収支統計」より筆者作成。

図表4: その他業務サービスの内訳 (12か月移動平均)



出所: 財務省「国際収支状況」、日本銀行「国際収支統計」より筆者作成。

片岡 剛士

チーフエコノミスト、上席執行役員
PwC Intelligence
PwCコンサルティング合同会社

伊藤 篤

シニアエコノミスト
PwC Intelligence
PwCコンサルティング合同会社

PwC Intelligence 統合知を提供するシンクタンク
<https://www.pwc.com/jp/ja/services/consulting/intelligence.html>

PwCコンサルティング合同会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi One タワー Tel: 03-6257-0700